

ほっかいどう民俗芸能振興事業成果報告

1. 事業概要

「ほっかいどう子ども民俗芸能全道大会」

○日 時：平成30年8月5日（日） 13:30～14:45

○場 所：北海きたえーる水と緑の広場特設会場
（札幌市豊平区豊平5条11丁目1-1）

○出演団体

団体名	市町村名	出演者数 (子ども)	概 要
大正宮神楽 保存会	帯広市	10人	大正神社の宮司だった寒河江 和郎氏が小樽市の住吉神社の太々神楽を伝え、大正の里に息づく神楽に編纂したもの。
恵庭岳太鼓 保存会	恵庭市	7人	市内のどこからでも仰ぎ見ることができ、山麓の原始林から湧き出る清水は豊かな恵みをもたらす恵庭岳にあやかり命名。
南浜獅子神楽 保存会	利尻富士町	10人	明治時代の中頃、ニシン漁の栄華を夢見た富山県からの移住者によって持ち込まれた郷土芸能で宗谷に伝わった唯一の越中獅子舞。
江差追分踊り 保存会	江差町	5人	江戸時代、アイヌのメノコを集めて松前の殿様の前で踊ったのが最初と伝えられる。唄に合わせてカモメや波の動きを表現した静かな動きが特徴。
松前神楽北海 道連合保存会	小樽市	8人	旧松前藩の城中で行われた神楽で、渡島管内や後志管内を中心に広範囲に伝承されており、今年3月には国の重要無形民俗文化財に指定。

【大会当日の様子】



大正宮神楽保存会（帯広市）



恵庭岳太鼓保存会（恵庭市）

【大会当日の様子】



南浜獅子神楽保存会（利尻富士町）



江差追分踊り（江差町）



松前神楽北海道連合保存会（小樽市）



集合写真

- 屋外での開催のため、雨や猛暑が心配されましたが、当日は最高気温25℃、曇ときどき晴れという最高の天気の中で開催されました。
- 開会式では、佐藤教育長から「これからは皆さんが新たな歴史をつくとともに、次の世代の子どもたちに北海道の歴史や文化を引き継いでいってほしい」との激励を受け、大会がスタートしました。
- 帯広市の「大正宮神楽保存会」による笛と太鼓に合わせたおごそかな神楽で幕を明け、続いて恵庭市の「恵庭岳太鼓保存会」による力強く雄大な太鼓の演奏が披露されました。次に、利尻富士町の「南浜獅子神楽」が宗谷に伝わった唯一の越中獅子舞を演じ、江差町の「江差追分踊り保存会」が江差追分の唄と三味線に合わせて優雅な舞を披露しました。最後は、今年3月に国の重要無形民俗文化財に指定された松前神楽を小樽市の「松前神楽北海道連合保存会」が披露し幕を閉じました。
- 閉会式では、鶴羽教育委員から心温まる講評をいただき、すべての日程を終了しました。

2. 全道大会の感想

子どもたちの声

- ・ 長い間続いてきた伝統なので、途絶えることなく次の世代の人たちに伝えていきたい。
- ・ 全道大会に参加して初めて見る民俗芸能があつていい経験になった。
- ・ 北海道にはいろいろな神楽があることがわかって勉強になった。
- ・ 大会に参加してすごく緊張したけど楽しかったので、また参加したい。
- ・ もっと広い会場で披露したかった。
- ・ もっと笛をふけるようになって曲をたくさんひけるようになったら楽しそう。
- ・ 日本らしい文化なのでこれからも続けていきたい。
- ・ もっと多くの人に民俗芸能のことを知ってほしい。
- ・ 自分が演じることでお客さんが喜んでくれたこと、笑顔になってくれたことが楽しかった。

保護者や団体の声

- ・ 子どもたちのやる気をおこさせるためには発表する機会がたくさん必要。
- ・ 発表の機会があることにより、活動状況を知ってもらえるのでこのような場が必要。
- ・ 学校での勉強や部活、習い事など、子どもたちには大切なことがたくさんあるので、趣味として無理せずに積み重ね、やがて後継者を育成してほしい。
- ・ 暑い季節なので屋外の会場ではなく、屋内で披露したかった。また、昼食会場や控室などがもっと充実している施設で実施するほうがよい。
- ・ 民俗芸能の練習に真剣に取り組むことにより、子どもたちの成長につながった。
- ・ リハーサルで音が出せなかったり練習できなかったのが残念だった。
- ・ 日本の文化に触れる機会を大切にしたいので、今後も続けさせたい。
- ・ 他の伝統芸能を見ることはとても良いことなので、全道大会のような発表の場は必要。
- ・ 企画・運営者が民俗芸能に対する理解を深め、もっと子どもたちの立場に立った企画をするべき。
- ・ 子どもたちが一生懸命披露しているので、飲食等ができる会場での開催は検討が必要。
- ・ ステージの横幕など、民俗芸能を発表するには設備が足りなかった。
- ・ 大会に参加して、子どもたちが演舞することの喜びや練習の大切さを学び、指導者への感謝の念を抱くとともに発表する度胸や自信がついた。
- ・ 事前に他の参加団体の詳細などについて情報があれば、子どもたちが他団体にもっと興味や関心を持ったと思う。
- ・ 無理に150年記念式典に合わせて実施する必要はなかったと思う。
- ・ 伝統芸能の継承には、地域の理解や指導者の育成が必要。
- ・ 一般の方にもっと民俗芸能について知ってもらうことが、今後の伝承に重要。
- ・ 継承には地区限定の取組から、町や道全体の取組につなげていくことが必要。
- ・ 各市町村教育委員会や学校が一体となって民俗芸能を未来に継承してほしい。

参加された皆さん、応援にかけつけていただいた保護者や関係者の皆さん、本当にお疲れ様でした！